

おあしす

日本沙漠学会 第34回学術大会（宮崎大会）、2023年5月27日（土）～28日（日）



進行を務める入江光輝大会実行委員長



開会の挨拶を述べる森尾貴広会長



懇親会で挨拶を述べる田中徹副会長



公開シンポジウム「宮崎から見る世界の農業・防災・エネルギー」
総合討論の様子。左から、多炭雅博氏、川崎典子氏、西岡賢祐氏。



ポスターセッションの様子



学会賞受賞者講演の様子。丸山優樹会員（左）と Alowaisy Adel 会員（右）。ともに奨励賞を受賞。



日本沙漠学会の学会誌「沙漠研究」は、Vol. 25（2015）から J-STAGE にてオンライン版で公開されています。
日本語版：<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jals/-char/ja/>
英語版：<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jals>

日本沙漠学会・第34回学術大会（宮崎大会）— 報告（大会実行委員会報告）

日本沙漠学会第34回学術大会が、宮崎市のホテルメリージュおよび宮崎大学において、2023年5月27日（土）～28日（日）に開催されました。また本大会公開シンポジウムは、「宮崎から見る世界の農業・防災・エネルギー」と題し、27日午後にホテルメリージュにて行われました。

第34回学術大会

期日：2023年5月27日（土）～28日（日）

場所：ホテルメリージュおよび宮崎大学

プログラム

5月27日（土）：ホテルメリージュ

研究発表会・セッション1

ポスターセッションコアタイム

総会および学会賞授賞式

公開シンポジウム

学会賞受賞者講演

懇親会

5月28日（日）：宮崎大学

研究発表会・セッション2

研究発表会・セッション3

エクスカージョン（青島・鶴戸神宮・堀切峠）

学術大会の概要

本大会では、コロナ禍明けで完全対面方式で研究発表会を行い、口頭発表14件、ポスター発表13件の発表がありました。研究対象地域は、中央・西アジア圏8件、アフリカ圏7件（うちジブチ4件）、中国2件、モンゴル2件、ベトナム1件、日本1件、その他場所を特定しないもの6件でした。ここ数年のコロナ禍の影響を受け、対象地域を特定した発表の多くは留学生によるものであったほか、海外出張の制限が多かった中で場所を特定せずに国内で実施可能な実験や衛星画像解析に基づいた工夫を凝らした研究の報告が多数ありました。参加者数は44名（うち学生会員14名、会員以外2名）でした。なお、次回の学術大会開催地は、文教大学となります。

今回、以下の2名の方々が奨励賞を受賞されました。受賞者には27日の公開シンポジウム終了後に受賞記念講演をしていただきました。

丸山優樹 会員（農林水産政策研究所）：「セネガル川氾濫原での新規農地開発に基づく食料安全保障の改善に向けたコメ消費者趣向調査」

【受賞者コメント】 この度は、このような素晴らしい賞を頂戴し、誠にありがとうございます。本賞は私個人の力ではなく、モリアニアならびにセネガルを対象とした研究をご提案下さり、卒業論文から博士論文に至るまでご指導くださった、宮崎大学の入江光輝教授、経済学的視点からのアプローチをご教授くださった筑波大学の氏家清和准教授のお陰であると痛感しております。この場を借りて深くお礼申し上げます。そして、今後も西アフリカ地域の食料安全保障の強化に寄与できるよう、研究に邁進してまいります。日本沙漠学会のみなさまにおかれましては、引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

Alowaisy Adel 会員（九州大学）：「土質材料の多孔質性を生かした覆土システム効率化と半乾燥地への適用に関する研究」

【受賞者コメント】 Honored by this award, I would like to express my sincere gratitude to the Japanese Association for Arid Land Studies for its recognition and encouragement. I would like to extend my heartfelt thanks to Prof. Noriyuki Yasufuku, Assoc. Prof. Ryohei Ishikura and Ms. Jumana Hussary of Kyushu University for their immense efforts and contribution to the success of this research. Finally, encouraged by this award, I look forward to contributing and collaborating with the JAALS.

ベストポスター賞

当日ポスター発表を行った参加者から以下の2件がベストポスター賞に選出されました。

Le Thi Cam Nhung 会員（東京農工大学大学院農学府農学専攻2年）：Assessment of the potential of Robusta organic coffee in Vietnam

【ベストポスター賞受賞者コメント】

It was actually my first time attending a high-caliber conference in Japan. I'm honored to be selected for "The Best Poster Presenter" award at the 34th Academic Conference of the Japanese Association for Arid Land Studies held in May 2023 in Miyazaki. This recognition is an unforgettable milestone on my academic path. Through the conference, I had an opportunity to broaden my horizons with a variety of updated knowledge and learned useful skills. This award is an inspiration not only for me but also for young students and researchers to pursue their goals. Let it be an incentive for you as no dream is in fact out of reach. I am grateful that Professor Yoshiko Kawabata encouraged and accompanied me during the preparation period. Last but not least, motivated by this prestigious award, I eagerly look forward to the prospect of collaborating with JAALS in the future.

倉光太一会員（東京農業大学大学院博士前期課程1年）：ジブチ共和国南部沙漠地帯の蒸発特性

【ベストポスター賞受賞者コメント】

この度、ベストポスター賞を受賞できたことを大変嬉しく思います。初めての学会発表であり、少々緊張しましたが、多くの貴重な意見を頂き、研究の展望を感じる良い機会となりました。今後も乾燥地の水・エネルギー循環の解明に取り組んでいこうと思います。この場を借りて、ご指導いただいた東京農業大学の鈴木教授、渡邊教授、そして研究室の皆様から感謝申し上げます。

公開シンポジウム

「宮崎から見る世界の農業・防災・エネルギー」と題し、以下の3件の講演の後、横断的な議論が行われました。

演題1「食料・環境の持続性確保のための人工衛星を使った地球観測技術」

演者：宮崎大学 多炭雅博 教授

概要 地下水は乾燥地における農業を支える水資源であるが、過剰な揚水は地下水位低下等を招き、その持続可能性が危ぶまれることとなる。これまでは限られた地点で直接観測されていた取水量や灌漑量に基づいて水収支を評価し、その利用が計画されてきたが、その空間的な変動は大きく、特に水資源に限りのある乾燥地ではより高解像度かつ高精度な評価が求められている。登壇者は衛星観測に基づいて地表の水分状態とエネルギー状態から実蒸発散量を推定するアルゴリズムを開発し、水使用量よりも高い空間解像度で広域の実蒸発散量の空間分布情報を得られるようにした。近い将来、これを活用した農業水資源の計画や管理が可能となり、農業生産についての確にゾーニングを行い、生産の効率化や持続可能性の向上が図られようとしていることが紹介された。

演題2「「防災×教育」で取り組む国際協力活動の可能性～みやざきの経験をバヌアツに活かす～」

演者：宮崎大学 川崎典子 准教授

概要 バヌアツ共和国は環太平洋火山帯に位置し、火山噴火、地震、津波のリスクが高く、また近年は大型のサイクロンが頻発しており、国連大学による「世界リスク報告書2016」では世界で最も自然災害リスクの高い国にランクされている。それらの災害リスクに関するデータ解析や予報発信能力は現状で不十分であり、早期警報システムの導入、防災意識・対策の向上、災害復旧体制の改善が必要とされている。一方、宮崎県も同様に台風による河川氾濫・土砂災害や南海トラフ地震による津波の発生などの災害リスクが懸念されているが、それに対して小学校教育を通じた地域への防災教育が進められてきている。登壇者は宮崎における経験やノウハウの蓄積が同国の防災教育にも活用可能であると考えており、同国の地域的・文化的特性に配慮しながら宮崎大学として実施可能な国際協力の可能性が紹介された。

演題3「沙漠地域にも広がる太陽光発電」

演者：宮崎大学 西岡賢祐 教授

概要 宮崎は日照時間が長く、太陽光発電のポテンシャルが高い。その地域特性を生かし、登壇者が宮崎大学キャンパス内に設置したさまざまな太陽光発電実験装置が紹介された。沙漠地域でも豊富かつ持続可能なエネルギーとして太陽光発電は大きな期待をされるが、降塵の受光面被覆による発電量低下が実用上の大きな課題となる。一方で、宮崎県東部には新燃岳があり、風向きによっては降灰を受けることがある。その際に得られた知見として、設置角度を $10^\circ \Rightarrow 20^\circ$ とするとその後の降雨による洗い流しの効果が大きく、出力が大きく回復されることが示された。また、太陽光を追尾する可動型システムでは発電を行えない夜間にパネルを下向きにすることで粉塵の堆積を削減できることが紹介された。さらにパネル表面のシリカ防汚コーティングも一つの有効手段となりうることが紹介された。最後

に、畜産、農業、焼酎製造などの地域の産業と太陽光エネルギーを連携させた地産地消システムのアイデアとその実現に向けた取り組みが紹介された。

懇親会

公開シンポジウム終了後、同会場にて47名の参加者による懇親会が行われました。宮崎産の地鶏や焼酎などを楽しみながら、コロナ禍の規制が明けての久しぶりの交流の場となりました。

エクスカーショ

学術大会終了後の28日午後に、宮崎県南部の日南海岸をバスで巡りました。宮崎一帯は砂岩と泥岩が互層した特有の地質で、それが海食を受けて形成された“鬼の洗濯板”を青島で間近に見たり、豪雨時に生じた大規模崩壊の跡地を車中から眺めたりもしました。また、“天孫降臨”の地、宮崎には多くの神社がありますが、その中でも海の景色とあわせて人気の高い青島神社と鶴戸神宮を参拝しました。



公開シンポジウムでの発表の様子



奨励賞およびベストポスター発表賞の授賞式



懇親会集合写真



エクスカーショ (堀切峠にて)

【第34回日本沙漠学会学術大会実行委員会委員長 入江光輝】

2023 年度日本沙漠学会第 36 回評議員会報告

2023 年 4 月 15 日 (土), 晴海区民館 (東京都中央区) および Web ハイブリッド形式で第 36 回評議員会が開催された。会議に先立ち, 定足数 (会長, 副会長, 監事, 理事, 評議員の 1/3 以上) を満たしていることが総務担当島田沢彦理事より報告があった。森尾貴広会長を議長として, ① 2023 年度総会資料提出議案について (島田沢彦総務担当理事, 矢沢勇樹・高橋新平財務担当理事より説明), ② 2022 年度学会賞の審査報告 (渡邊三津子学会賞担当理事より説明), ④その他, について各々提案され承認された。詳細は「学会記事」掲載の議事録を参照されたい。

2023 年度日本沙漠学会総会報告

5 月 27 日 (土) 14:00~15:15, ホテルメリージュ (宮崎市) での対面と Zoom ミーティングでのハイブリッド形式で, 総会が開催された。正会員数 201 名, 名誉会員数 4 名に対して, 出席者数 28 名 (うちオンライン 3 名), 委任状数 52 名があり (合計 80 名), 定足数 (正・名誉会員数の 1/3 以上) を満たして総会が成立したことが総務担当島田沢彦理事より報告があった。総会の開催にあたり森尾貴広会長より挨拶があり, その後川田清和会員を議長として選出し, 承認の後に議事を進行した。総務担当島田沢彦理事より 2022 年度事業報告がなされ, 続いて財務担当矢沢勇樹理事より決算報告, そして渡邊文雄監事より会計監査報告が各々説明された。学会誌「沙漠研究」に関し, J-STAGE での電子版の公開と年度末の合本号冊子によって刊行している件について質問や意見があり, 森尾会長より経緯が説明されたのち, 当該議題が承認された。2023~2025 年度日本沙漠学会役員について, 選挙管理委員会委員長島田理事から選挙・選出の経緯と結果について説明がなされた後, 新規役員が承認された。新役員体制のもと, 2023 年度事業計画 (案)・予算 (案) について総務担当鈴木伸治理事および財務担当矢沢理事からそれぞれ説明がなされ承認された。なお, 分科会の活動の在り方について意見があったため, 理事会を中心に検討を重ねることとした。また, 学会賞審査報告が学会賞選考委員会渡邊三津子委員長より報告がなされ, 2 名の日本沙漠学会賞奨励賞 (丸山優樹会員「セネガル川氾濫原での新規農地開発に基づく食料安全保障の改善に向けたコメ消費者趣向調査」, アロウイシー・アデル会員「土質材料の多孔質性を活かした覆土システムの効率化と半乾燥地への適用に関する研究」) について審査経緯の報告がなされた。さらに名誉会員について, 森尾会長より豊田裕道会員, 小島紀徳会員が推挙され, 承認された。

◇総会資料

1. 2022 年度事業経過・決算・会計監査報告

(1) 2022 年度事業報告

1) 会務報告

- a. 会員 2023 年 3 月 31 日現在, 会員数は以下の通り。
- 名誉会員 : 4 名
 - 正会員 : 201 名 (入会 6 名, 退会 8 名)
 - 学生会員 : 12 名 (入会 8 名, 退会 22 名)
 - 賛助会員 : 4 社
 - 購読会員 : 3 機関 (4 口)

b. 会議

(a) 日本沙漠学会 2022 年度総会

- ・2022 年 6 月 11 日 (土), 12:15~, 足寄町民センター大ホールおよび Zoom ミーティング会場において, 対面・オンライン・ハイブリッド形式で総会が開催された。総会の概要を「おあしす」No. 118 (2022 年 6 月) に掲載した。

(b) 評議員会 (第 35 回)

- ・2022 年 4 月 16 日 (土) 15:00~16:30, Web 会議により開催された。議事概要を「おあしす」No. 114 (2022

年6月)に掲載した。

(c) 理事会

- ・第153~156回理事会を開催した。第153回議事録を「おあしす」No. 118 (2022年6月)に、第154回議事録を「おあしす」No. 119 (2022年9月)に、第155回議事録を「おあしす」No. 120 (2022年12月)に、第156回議事録を「おあしす」No. 121 (2023年3月)に各々掲載した。

(d) 編集委員会

- ・沙漠研究 Vol. 32 No. 1~Vol. 32 No. 4 を編集し発行した。
- ・2022年6月10日(金)、にて拡大編集委員会を足寄において開催した。さらにE-mailによって委員会内における審議を行った。

(e) 学会賞審査委員会

- ・2022年度の学会賞審査委員会をWeb会議により開催した。

(f) 学会会員数減少への対策検討委員会

- ・委員会内においてメールにより情報交換を行った。

2) 刊行物

a. 日本沙漠学会誌「沙漠研究」

- ・Vol. 32 No. 1 (2022年6月), Vol. 32 No. 2 (2022年9月),
Vol. 32 No. 3 (2022年12月), Vol. 32 No. S (2022年12月),
Vol. 32 No. 4 (2023年3月)
- ※ J-STAGE による電子版の公開と年度末の合本号冊子の発行

b. ニュースレター「おあしす」

- ・No. 118 (2022年6月), No. 119 (2022年9月)
No. 120 (2022年12月), No. 121 (2023年3月)
- ※ Web サイトでの電子版の公開

c. 日本沙漠学会講演要旨集

- ・第33集(第33回学術大会, 2022年6月11日~6月12日)
- ※ Web サイトでの電子版の公開

d. 学会ホームページによる情報提供

- ・学会ホームページによる活動状況に関する情報提供を行った。理事会, 分科会, シンポジウム, 関連学協会
の催事等の開催案内と報告等をタイムリーに掲載し更新した。

3) 講演会及び研究会等の開催

a. 第33回学術大会

- ・2022年6月11日(土)~6月12日(日), 新型コロナウイルス感染拡大の影響で1年間延期された北海道(酪農学園大学)での開催を, 足寄町民センターにおいて実施した。オンラインによる口頭発表の配信(Zoom)も併用したハイブリッド形式を採用した。ポスター発表については, 事前にGoogleドライブにてポスターを掲示しコメント機能で質疑応答・討論を行い, オンサイト-オンラインのハイブリッド形式でのショートプレゼンテーションを行った。大会およびエクスカージョンの開催概要を「おあしす」No. 118 (2022年6月)に掲載した。

b. 2022年度秋季シンポジウム

- ・2022年10月12日(土), 「遊牧を考える—過去・現在・未来」と題して, 対面会場のレクtoorレ湯河原とオンライン(Zoom)配信併用のハイブリッド形式で開催した。シンポジウムの開催概要を「おあしす」No. 120 (2022年12月)に掲載した。

c. その他

- ・なし

4) 分科会等の活動

a. 沙漠工学分科会(2023年3月31日現在, 登録者数: 85名)

会長: 田島 淳(東京農業大学)

幹事: 鈴木伸治(東京農業大学)

連絡先（事務局）：〒156-8502 世田谷区桜丘 1-1-1

東京農業大学 地域環境科学部 生産環境工学科

Tel：03-5477-2351, Fax：03-5477-2620

E-mail：s4suzuki@nodai.ac.jp

活動実績：2023年3月8日（木）、第33回講演会として「極乾燥地域ジブチにおける持続可能な農牧業を目指した共同研究 Collaborative Studies for Sustainable Agropastoral of Extremely Dry Environment in Djibouti」と題したシンポジウムを、東京農業大学・サイエンスポート 8F エアブリッジおよびオンライン（Zoom）配信併用のハイブリッド形式で開催した。話題提供者および提供話題は、Sawahiko Shimada (Tokyo University of Agriculture) 「Overview of the SATREPS project studies」、Ibrahim Souleiman Abdallah (University of Djibouti) 「Discovery of Spirulina in Lake Abbe in reference to its distribution in East Africa」、Idil Mouhoumed Elmi (University of Djibouti) 「The chemical composition of the Djiboutian water resources」、Abdillahi Houssein Abdallah (University of Djibouti) 「Agroresources in Djibouti」、Rikako Kimura and Akira Kurosawa (Tokyo University of Agriculture) 「Grazing capacity parameters collected from Ali Sabieh rangelands in Djibouti」、Fumio Watanabe and Atsushi Sanada (Tokyo University of Agriculture) 「Sustainable Agro-pastoral experimental field establishment in Douda, Djibouti」。オンサイト 30 名、オンライン 21 名の参加を得た。シンポジウムの開催概要は「おあしす」No. 1121 (2023年3月) に掲載した。

- b. 乾燥地農学分科会（2023年3月31日現在、登録者数：181名）

会長：石川祐一（秋田県立大学）

連絡先（事務局）：〒914-0041 東京都町田市玉川学園 8-3-23

（株）アースアンドヒューマンコーポレーション 気付

FAX：018-872-1677

E-mail：owner-cadal@ijnet.or.jp

活動実績：(1) 2022年11月9日（水）、第31回講演会「乾燥地と日本の食糧：供給源の構造変化にどう対応するか？」のテーマで赤羽会館講堂において開催した。話題提供者は、吉橋 忠（国際農林水産業研究センター）、齋賀大昌（農林水産省みどりの食料システム戦略グループ）、羽賀清典（畜産環境整備機構）、佐伯真魚。19名の参加者を得た。

- c. 沙漠誌分科会（2023年3月31日現在、登録者数：64名）

会長：縄田浩志（秋田大学国際資源学部）

連絡先（事務局）：〒010-8502 秋田市手形学園町 1 番 1 号（河合研究室）

E-mail：sabakushi.c@gmail.com

活動実績：(1) 沙漠研究の特集論文として、2018年10月開催の研究会「サウディアラビア、ワーディ・ファーティマ半世紀前の記録とその活用に向けた方法論の検討」に関する小特集を企画、投稿・査読中。

- d. 風送ダスト研究会（2023年3月31日現在、会員数：12名）

会長：黒崎泰典（鳥取大学）

連絡先（事務局）：〒680-0001 鳥取市浜坂 1390

鳥取大学 乾燥地研究センター

TEL：0857-21-7032, FAX：0857-29-6199

5) 国内外の研究者・関係機関との交流及び協力

- a. 日本地球惑星科学連合での活動.
- b. 地理学連携機構・地理関連学会連合への協力.

(2) 2022 年度決算報告

日本沙漠学会 2022 年度 決算 (案)
 (2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

(単位：円)

	費目	決算額	予算額	対予算額増減	備考
収入の部	繰越金	7,466,673	7,466,673		
	会費	1,775,000	2,004,000	-229,000	
	1) 入会金	14,000	10,000	4,000	14件
	2) 正会員費	1,441,000	1,624,000	-183,000	2022年度164名+過年度及び前受16名+1000円過入金1名
	3) 学生会員費	60,000	110,000	-50,000	12件
	4) 購読会員費	60,000	60,000	0	6件
	5) 賛助会員費	200,000	200,000	0	4社
	その他収入	186,212	370,000	-183,788	
	1) 出版費	168,000	360,000	-192,000	著書負担金
	2) その他	18,212	10,000	8,212	分科会戻し金 (18,200)、銀行利子 (12)
(小計)	1,961,212	2,374,000	-412,788		
合計	9,427,885	9,840,673	-412,788		
支出の部	加盟団体会費	10,000	10,000	0	日本地球惑星科学連合年会費
	学会誌発行費	1,259,280	975,000	284,280	
	1) データ作成費	925,100	600,000	325,100	沙漠研究31巻4号～32巻3号編集費・J-stage取次費 お返し31巻4号～32巻3号編集費
	2) 合本発行費	315,700	350,000	-34,300	沙漠研究第31巻合本作成費
	3) 発送費	18,480	25,000	-6,520	発送手数料・メール便
	活動準備金	496,431	505,000	-8,569	
	1) 大会預託金	352,161	200,000	152,161	第33回 (2022年4月152,161) 第34回 (2023年1月200,000)
	2) シンポジウム預託金	19,270	100,000	-80,730	秋季シンポジウム学生アルバイト代
	3) 分科会交付金	125,000	205,000	-80,000	乾燥地農学分科会
	4) DT14預託金	0	0	0	
	表彰費	0	20,000	-20,000	
	会議費	0	12,000	-12,000	
	事務運営費	189,930	310,000	-120,070	
	1) 通信・郵送費	99,093	100,000	-907	振込手数料 会費請求等郵送代、選挙発送費用
	2) 印刷費	33,000	100,000	-67,000	選挙者簿作成 (33,000)
	3) 事務費	33,837	30,000	3,837	切手・備品購入代金、ZOOM立替代金 (33,000)
4) 交通費	0	50,000	-50,000		
5) 諸雑費	24,000	30,000	-6,000	サーバー更新 (24,000)	
学会業務等外部委託費	508,200	508,200	0	2022年度分定額462,000円+消費税 (10%)	
予備費	0	33,800	-33,800		
(小計)	2,463,841	2,374,000	89,841		
次年度繰越金	6,964,044	7,466,673	-502,629		
合計	9,427,885	9,840,673	-412,788		

(3) 貸借対照表および監査報告

貸借対照表
(2022年4月1日～2023年3月31日)

科目		金額	科目		金額
郵便振込口座		5,581,785	借入金		0
三菱UFJ銀行		1,369,284	次期繰越金		6,964,044
現金		12,975			
合計		6,964,044	合計		6,964,044

(単位:円)

会計監査報告

日本沙漠学会2022年度会計報告に基づき、帳簿・帳票類を監査したところ、適正に運営されたことを確認いたしました。

2023年4月8日

日本沙漠学会 監事 豊田 裕道

日本沙漠学会 監事 渡邊 文雄

2. 2023-2025 年度日本沙漠学会役員選出結果の報告および新規役員の提案

xiii ページ参照.

3. 2023 年度事業計画及び予算 (案)

(1) 2023 年度事業計画 (案)

1) 会務

a. 会員 2023年4月1日現在、会員数は以下の通り。

名誉会員：4名	正会員：201名
---------	----------

学生会員：12名	賛助会員：4社
----------	---------

購読会員：3機関(4口)

b. 会議

(a) 日本沙漠学会 2023 年度総会

・2023年5月27日(土) 宮崎県ホテルメリージュ Web ハイブリッド形式開催。

(b) 評議員会 (第36回)

・2023年4月15日(土) 晴海区民館および Web ハイブリッド形式で既に開催。

(c) 理事会 (第157回)

・2022年4月15日(土) 晴海区民館および Web ハイブリッド形式で既に開催。他4回の開催。

(d) 総務委員会 適宜開催する。

(e) 財務委員会 適宜開催する。

(f) 編集委員会 適宜開催する。

(g) 企画委員会 適宜開催する。

(h) 学会賞審査委員会

・2023年5月27日(土)、第34回学術大会におけるベストポスター賞の審査を行う。また委員会を適宜開催する。

(i) 学会会員数減少への対策検討委員会 適宜開催する。

(j) 会則等改定委員会 会長の要請により適宜開催する。

2) 刊行物

- a. 日本沙漠学会誌「沙漠研究」
 - ・ Vol. 33 No. 1 (2023 年 6 月), Vol. 33 No. 2 (2023 年 9 月),
Vol. 33 No. 3 (2023 年 12 月), Vol. 33 No. 4 (2024 年 3 月)
 - ※ J-Stage による電子版の公開と年度末の合本号冊子の発行
- b. ニューズレター「おあしす」
 - ・ No. 122 (2023 年 6 月), No. 123 (2023 年 9 月),
No. 124 (2023 年 12 月), No. 125 (2024 年 3 月)
 - ※ Web サイトでの電子版の公開
- c. 日本沙漠学会講演要旨集
 - ・ 第 34 集 (第 34 回学術大会, 2023 年 5 月 27 日)
 - ※ Web サイトでの電子版の公開
- d. 日本沙漠学会ホームページでの適宜情報発信, 入会案内の更新.

3) 講演会の開催

- a. 第 34 回学術大会
 - ・ 2023 年 5 月 27 (土)~5 月 28 日 (日) 宮崎県ホテルメリーージュおよび宮崎大学木花キャンパス於開催 (研究発表会・総会・学会賞授与等).
 - ・ 2023 年 5 月 27 日(土) 第 34 回学術大会企画シンポジウム「宮崎から見る世界の農業・防災・エネルギー」(宮崎県ホテルメリーージュ・大ホール鳳凰)
- b. 秋季シンポジウム
 - ・ 2023 年 11 月ごろに「乾燥アフリカにおけるアグロパストラル実装展開 (仮)」と題して, ハイブリット形式で開催予定.
- c. その他
 - ・ 適宜ミニシンポジウムを開催.

4) 分科会講演会等の活動

- a. 沙漠工学分科会
 - ・ 2023 年 11 月ごろに秋季シンポジウムを主催予定.
 - ・ 分科会会員と関連団体組織等との交流 (共同研究等).
- b. 乾燥地農学分科会
 - ・ 2023 年 11 月に第 32 回乾燥地農学講演会を開催
 - ・ 分科会機関誌「CADAL ニュース」第 68 号をおあしすに掲載
- c. 沙漠誌分科会
 - ・ 2023 年夏 (予定), 新型コロナウイルス感染症の影響により延期されている研究会「フリー&オープンソースソフトウェアを用いたフィールドワークと分析の実践 (第 2 回)」を開催する.
 - ・ 2023 年夏 (予定), 沙漠誌分科会シンポジウム「乾燥地・半乾燥地における「系」としての「熱」再考-現在中東における文化と生業への着目から-」を開催する.
 - ・ 沙漠研究の特集論文として, 2018 年 10 月開催の研究会「サウディアラビア, ワーディ・ファーティマ半世紀前の記録とその活用に向けた方法論の検討」に関する小特集への投稿を継続. 2019 年度秋季シンポジウム「半世紀前の写真資料の研究活用:サウディアラビア, ワーディ・ファーティマ地域における再調査から」に関する小特集を企画・投稿.
- d. 風送ダスト研究会

5) 国内外の研究者・関係機関との交流及び協力

- a. Desert Technology XV (2023 年 6 月 3 日~6 月 5 日) ヨルダン開催への協力.
- b. 日本地球惑星科学連合活動への協力.
- c. 地理学連携機構・地理関連学会連合活動への協力.

d. その他 国内外の講演会等への協力・関係機関との交流及び協力.

6) その他本会の目的達成のための事業

必要な事業を随時開催.

(2) 2023 年度予算 (案)

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

(単位：円)

	費目	予算額	前年度決算額	対前年度額増減	備考
収入の部	繰越金	6,964,044	7,466,673	-	
	会費	1,922,000	1,775,000	147,000	
	1) 入会金	14,000	14,000	0	新規会員14名想定
	2) 正会員費	1,608,000	1,441,000	167,000	正会員数(2023.4.1現在)201名
	3) 学生会員費	60,000	60,000	0	学生会員数(2023.4.1現在)12名
	4) 購読会員費	40,000	60,000	-20,000	3機関(4口)
	5) 賛助会員費	200,000	200,000	0	4社
	助成金	0	0	0	
	その他収入	370,000	186,212	183,788	
	1) 出版費	360,000	168,000	192,000	原著論文2報×4号
2) その他	10,000	18,212	-8,212	著作権料、利息等	
	(小計)	2,292,000	1,961,212	330,788	
	合計	9,256,044	9,427,885	-171,841	
支出の部	加盟団体会費	10,000	10,000	0	日本地球惑星科学連合団体年会費
	学会誌発行費	1,079,300	1,259,280	-179,980	
	1) データ作成費	600,000	925,100	-325,100	各号150,000円×4号
	2) 合本発行費	454,300	315,700	138,600	Vol.33(1)-(4)合冊分
	3) 発送費	25,000	18,480	6,520	発送手数料・メール便・郵送料
	活動準備金	305,000	496,431	-191,431	
	1) 大会預託金	0	352,161	-352,161	学術大会開催経費(宮崎大会)、前年度送金
	2) シンポジウム預託金	100,000	19,270	80,730	シンポジウム開催経費
	3) 分科会交付金	205,000	125,000	80,000	3分科会
	表彰費	20,000	0	20,000	学術賞表彰状作成
	会議費	12,000	0	12,000	評議員会・理事会経費
	事務運営費	310,000	189,930	120,070	
	1) 通信・郵送費	100,000	99,093	907	振込手数料 会費請求等郵送代
	2) 印刷費	100,000	33,000	67,000	総会・会議資料
	3) 事務費	30,000	33,837	-3,837	消耗品費等
	4) 交通費	50,000	0	50,000	
	5) 諸雑費	30,000	24,000	6,000	Webサーバー管理費等
学会業務等外部委託費	508,200	508,200	0		
	(小計)	2,292,000	2,463,841	-171,841	
	次年度繰越金	6,964,044	6,964,044	0	
	合計	9,256,044	9,427,885	-171,841	

4. 学会賞審査報告

令和5年度 日本沙漠学会 奨励賞

氏名：丸山優樹 会員

テーマ：セネガル川氾濫原での新規農地開発に基づく食料安全保障の改善に向けたコメ消費者趣向調査

氏名：アロウイシー・アデル 会員

テーマ：土質材料の多孔質性を活かした覆土システムの効率化と半乾燥地への適用に関する研究

5. 名誉会員の推挙

豊田 裕道 会員
小島 紀徳 会員

6. その他

2020～2022 年度日本沙漠学会役員

会 長	森尾貴広				
副 会 長	鈴木伸治	田中 徹			
監 事	渡邊文雄	豊田裕道			
理 事 (総務担当)	島田沢彦	田島 淳			
(財務担当)	高橋新平	矢沢勇樹			
(編集担当)	川端良子	小島紀徳			
(企画担当)	小長谷有紀	石川祐一			
(学会賞担当)	渡邊三津子	的場泰信			
評 議 員	安部 豊	石川祐一	入江光輝	牛木久雄	川端良子
	北村義信	小島紀徳	児玉香菜子	小長谷有紀	酒井裕司
	真田篤史	篠原 卓	島田沢彦	菅沼秀樹	鈴木伸治
	高橋新平	田島 淳	田中 徹	豊田裕道	縄田浩志
	平田昌弘	藤巻晴行	的場泰信	三木直子	森尾貴広
	森 卓	矢沢勇樹	依田清胤	渡邊文雄	渡邊三津子
顧 問	安部征雄	森 卓			

委 員 会 (参考)

総務委員会 (*1 委員長	*2 事務局	W: Webmaster)			
島田沢彦 ^{*1,W}	田島 淳	真田篤史	篠原 卓	齋藤哲治 ^{*2}	
財務委員会 (*1 委員長)					
高橋新平 ^{*1}	矢沢勇樹				
編集委員会 (*1 委員長	*2 名誉委員長	*3 副委員長	*4 事務局)		
川端良子 ^{*1}	小島紀徳 ^{*2}	安部征雄 ^{*2}	酒井裕司 ^{*3}	Tim Davis	
Richard Harper	安部 豊	石川祐一	石本雄大	石山 隆	
入江光輝	遠藤 仁	川田清和	北村義信	児玉香菜子	
周 建中	菅沼秀樹	高橋新平	地田徹朗	豊田裕道	
縄田浩志	平田昌弘	藤巻晴行	的場泰信	三木直子	
森尾貴広	渡邊三津子	三角誠司 ^{*4}			
企画委員会 (*1 委員長)					
小長谷有紀 ^{*1}	石川祐一				
学会賞審査委員会 (*1 委員長	*2 幹事)				
渡邊三津子 ^{*1}	的場泰信 ^{*2}	安部 豊	石本雄大		
分科会長 (*1 沙漠工学	*2 乾燥地農学	*3 沙漠誌	*4 風送ダスト)		
田島 淳 ^{*1}	石川祐一 ^{*2}	縄田浩志 ^{*3}	黒崎泰典 ^{*4}		

2023～2025 年度日本沙漠学会役員

会 長	森尾貴広				
副 会 長	島田沢彦	田中 徹○			
監 事	高橋新平	渡邊三津子			
理 事 (総務担当)	真田篤史○	鈴木伸治			
(財務担当)	矢沢勇樹	渡邊文雄			
(編集担当)	川端良子	酒井裕司			
(企画担当)	石川祐一	入江光輝			
(学会賞担当)	児玉香菜子	的場泰信○			
評 議 員	安部 豊	石川祐一	入江光輝	川田清和	川端良子
	北村義信	小島紀徳	児玉香菜子	小長谷有紀	酒井裕司
	真田篤史○	篠田雅人	篠原 卓	島田沢彦	菅沼秀樹
	鈴木伸治	高橋新平○	田島 淳	田中 徹○	豊田裕道
	縄田浩志	平田昌弘	藤巻晴行	星野仏方	的場泰信○
	三木直子○	森尾貴広	矢沢勇樹	渡邊文雄	渡邊三津子
顧 問	安部征雄	小島紀徳	豊田裕道	森 卓	

理事と評議員のうち、○は会長選任。それ以外は選挙当選者。顧問は理事会で選任。

委員会 (参考, 2023 年 4 月 15 日現在)

総務委員会 (* ¹ 委員長 * ² 事務局 W: Webmaster)	鈴木伸治* ¹	真田篤史	篠原 卓	檜谷 昂	齋藤哲治* ^{2W}
財務委員会 (* ¹ 委員長)	矢沢勇樹* ¹	渡邊文雄			
編集委員会 (* ¹ 委員長 * ² 名誉委員長 * ³ 副委員長 * ⁴ 事務局)	川端良子* ¹	酒井裕司* ³	小島紀徳* ²	安部征雄* ²	Tim Davis
	Richard Harper	安部 豊	石川祐一	石本雄大	石山 俊
	入江光輝	遠藤 仁	川田清和	北村義信	児玉香菜子
	周 建中	菅沼秀樹	高橋新平	地田徹朗	豊田裕道
	縄田浩志	平田昌弘	藤巻晴行	的場泰信	三木直子
	森尾貴広	渡邊三津子	三角誠司* ⁴		
企画委員会 (* ¹ 委員長)	石川祐一* ¹	入江光輝			
学会賞審査委員会 (* ¹ 委員長 * ² 幹事)	的場泰信* ¹	児玉香菜子* ²	安部 豊	石本雄大	
分科会長 (* ¹ 沙漠工学 * ² 乾燥地農学 * ³ 沙漠誌 * ⁴ 風送ダスト)	田島 淳* ¹	石川祐一* ²	縄田浩志* ³	黒崎泰典* ⁴	

日本沙漠学会名誉会員

安部征雄, 牛木久雄, 小島紀徳, 都留信也, 豊田裕道, 真木太一

日本沙漠学会 令和5年度秋季シンポジウム & 沙漠工学分科会 第34回 講演会のお知らせ

沙漠工学分科会では、第34回講演会を日本沙漠学会令和5年度秋季シンポジウムとして下記の日程で開催いたします。まずは日程のみお知らせいたします。この講演会は、東京農業大学沙漠に緑を育てる会および東京農業大学総合研究所研究会沙漠緑化研究部会との合同開催です。

令和5年7月29日
沙漠工学分科会会長 田島 淳

記

日時：令和5年11月25日（土）14：00 から

場所：東京農業大学 世田谷キャンパス 国際センター 2F カンファレンスルーム 1

<https://www.nodai.ac.jp/campus/map/setagaya/>

合同開催：東京農業大学総合研究所研究会沙漠緑化研究部会および沙漠に緑を育てる会

問い合わせ先：東京農業大学 地域環境科学部 生産環境工学科

分科会 幹事 鈴木 伸治 E-mail：s4suzuki@nodai.ac.jp

2023 年度学会賞受賞候補者推薦のお願い

日本沙漠学会正会員 各位

日本沙漠学会会長 森尾貴広
学会賞審査委員会委員長 的場泰信

日本沙漠学会細則第 34 条にもとづき、日本沙漠学会賞（学会賞，学術論文賞，進歩賞，奨励賞の 4 賞）を公募いたします。つきましては、学会賞受賞候補者を下記の要領でご推薦下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 学会賞の種類

- (1) 日本沙漠学会学会賞 : 本学会において学術かつ事業活動に顕著な業績を挙げた会員に授与する。
- (2) 日本沙漠学会学術論文賞 : 「沙漠研究」に掲載された論文により乾燥・半乾燥地に関する学術上の顕著な業績を挙げた会員に授与する。
- (3) 日本沙漠学会進歩賞 : 乾燥地・半乾燥地に関する技術的，実践的な業績を挙げた会員または会員を含む団体に授与する。
- (4) 日本沙漠学会奨励賞 : 乾燥地・半乾燥地に関する萌芽の研究業績を挙げた会員に授与する。この場合の受賞者は，原則として当該年度において 35 歳以下の会員とする。なお，35 歳を超えた会員を奨励賞に推薦する場合には，その理由書を添付する。

2. 推薦期限 2024 年 2 月 29 日（木） 当日消印有効

3. 推薦方法 以下の書類を期限までに学会賞審査委員会（幹事）宛に郵送して下さい。なお奨励賞のみ，推薦に加えて自薦も可としますが，その場合には，本人の業績について照会可能な 2 名以上の所属・連絡先を添付してください。

- (1) 日本沙漠学会学会賞ならびに日本沙漠学会進歩賞を推薦する場合
 - 様式 1 の推薦書 1 部
 - 推薦に関する資料 1 組
- (2) 日本沙漠学会学術論文賞ならびに日本沙漠学会奨励賞を推薦する場合
 - 様式 2 の推薦書 1 部
 - 推薦に関する業績 1 組

4. 宛先（照会先）

〒 263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33 千葉大学文学部
日本沙漠学会 学会賞審査委員会 幹事 兎玉香菜子
E-mail : kodamaknk@faculty.chiba-u.jp

5. その他

応募された書類は返却しませんので，必要な場合は写しを保管下さい。

なお，過去の受賞者については日本沙漠学会ホームページ（<http://www.jaals.net/>）をご参照下さい。

様式 1

(日本沙漠学会学会賞・日本沙漠学会進歩賞用) 令和 年 月 日

日本沙漠学会学会賞ならびに日本沙漠学会進歩賞推薦書

1. 推薦者 所属：
氏名： 印
住所・電話：
2. 被推薦者 所属：
氏名： 生年 年 月 日
住所・電話：
入会年：
3. 推薦業績 題目：
4. 推薦理由
5. 推薦業績に関する資料リストなど

様式 2

(日本沙漠学会学術論文賞・日本沙漠学会奨励賞用) 令和 年 月 日

日本沙漠学会学術論文賞ならびに日本沙漠学会奨励賞推薦書

1. 推薦者 所属：
氏名： 印
住所・電話：
2. 被推薦者 所属：
氏名： 生年 年 月 日
住所・電話：
入会年：
3. 推薦業績 題目：
4. 推薦理由
5. 推薦業績に関する資料リストなど

著者名（共著の場合は全員）、題目、掲載誌名、巻号、頁、発行年を記載すること。

-----記入上の注意-----

- 1) 書 式 A4 縦置横書き、明朝体 12 ポイント、上下左右マージン 2.0cm 以上、1 行文字数 35~40 字、1 ページ
行数 35~40 行
- 2) 被推薦者 被推薦者が団体の場合は団体名およびその代表者を記入して下さい。
- 3) 推薦理由 箇条書きの場合は約 100 字以内で説明して下さい。
箇条書きでない場合は全体を 400 字程度で記載して下さい。
- 4) 様式 1 「日本沙漠学会学会賞・日本沙漠学会進歩賞」の場合 5. 資料はコピーなどを添付して下さい。
- 5) 様式 2 「日本沙漠学会学術論文賞・日本沙漠学会奨励賞」の場合 5. 業績リストは研究業績の別刷り（コピー
可）を添付して下さい。

学会賞審査委員会からのお知らせ 日本沙漠学会若手会員のみなさんへ

学会賞担当理事 的場 泰信
児玉 香菜子

日本沙漠学会では「奨励賞」「ベストポスター賞」など、若手研究者のみなさんを対象とした賞を設けています。

奨励賞

- 乾燥・半乾燥地に関する萌芽的研究業績を挙げた会員に授与されます。
※ 『沙漠研究』に掲載された論文や研究業績に基づき、学会員の推薦を受けて審査されます。
- 満35歳以下の若手会員を対象としています。※ 社会人経験者など「若手相当」とみなされる方は満35歳以上であっても対象となります。

ベストポスター賞

- 研究内容、表現や説明技術、熱意などが優れているポスター発表に対して授与されます。
- 学術大会でポスター発表をする満35歳以下の学部生、大学院生と大学院修了・中退後3年未満の会員が対象となります。※ 社会人経験者など「若手相当」とみなされる方は満35歳以上であっても対象となります。

メリット① 自分の研究について知ってもらえる

受賞者の研究は、学術大会だけでなくホームページなどで紹介されるので自分の研究について多くの人に知ってもらえる機会になります。

メリット② 履歴書に書ける

「奨励賞」「ベストポスター賞」をもらったら、履歴書の賞罰の欄に書くことができるので、就職活動にも役立ちます。

日本沙漠学会に所属する若手会員の皆さん
全員にチャンスがあります！

学術大会で発表した人は、ぜひ
沙漠研究に論文を投稿しましょう！

【問い合わせ先】日本沙漠学会 学会賞審査委員/E-mail : jaals@kyouritsu-online.co.jp

書評

共生エネルギー社会実装研究所編著
 「最新図説 脱炭素の論点 2023-2024」
 旬報社, 2023年6月1日発行, 471頁, 2,600円



毎日のように更新される未曾有の豪雨や最強の台風、猛暑、そして干ばつ、さらには燃料や食品の高騰…。これら全ての原因を「地球温暖化」という気候変動によるものと論されている気持ちにさえる。それと等しく、そして相反して叫ばれているのが二酸化炭素（1個の炭素と2個の酸素からなる気体）の「温室効果ガスの排出削減（脱炭素）」であり、石油文明の恩恵に満たされた人類にとっては大海原で方位を見失った帆船のようである。

本書はまさしく、その急務な解決策とされる糸口を探る最新の救世主となる（のかもしれない）。序章を含め全5章97テーマから構成され、日本沙漠学会前会長の小島紀徳先生を含め39人の専門家が解説している。小島先生は本書との関連性が高い書籍を多数執筆されており、「二酸化炭素問題ウソとホント—地球環境・温暖化・エネルギー利用を考える（アグネ承風社、1994年発行）」、「エネルギー・環境100の大誤解（コロナ社、2009年発行）」、「沙漠を森に—温暖化への処方箋—（コロナ社、2011年発行）」など、絶妙なタイトルとともに多くのデータをもとに科学的に解説している。本書も国内外の最新データをもとに図入りで解説を行っている。

このような難題について2022年11月より公開された対話型AI「ChatGPT」に問いかけてみた（原文まま）。



脱炭素の論点は何ですか？



脱炭素の論点は多岐にわたりますが、主な論点には以下のようなものがあります。

1. グローバルウォーミング対策：化石燃料の燃焼によって放出される二酸化炭素などの温室効果ガスが地球温暖化を引き起こしているため、脱炭素は地球温暖化対策の重要な論点となっています。

2. 再生可能エネルギーの普及：再生可能エネルギー（太陽光、風力、水力など）の導入によって化石燃料への依存を減らし、持続可能なエネルギー源の利用を促進することが重要です。
3. エネルギー効率の向上：エネルギーの使用効率を高めることにより、エネルギーの無駄を削減し、二酸化炭素排出を抑えることが求められます。
4. 交通手段の脱炭素化：自動車や航空機などの交通手段においても、電動化や持続可能な代替燃料の普及が進められています。
5. インフラの脱炭素化：建物や産業のインフラにおいて、エネルギー効率の向上や再生可能エネルギーの利用を推進し、炭素排出を減らす取り組みが重要です。

これらの論点を考慮して、脱炭素化は持続可能な未来のために重要な取り組みとなっています。



沙漠との関わりはありますか？



はい、沙漠との関わりは脱炭素化や持続可能性の観点から重要な要素となっています。

1. 再生可能エネルギーの活用：沙漠地帯は日照時間が長く、風力も強いいため、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの活用に適しています。大規模な太陽光発電所や風力発電所の建設が進められており、これによって環境に配慮したエネルギー源を増やすことができます。
2. 砂漠化への対策：沙漠地帯では砂漠化が進行しており、乾燥化や土地の荒廃が問題となっています。脱炭素化の一環として、土壤保全や森林の復元など、砂漠化への対策が行われています。
3. 持続可能な農業：沙漠地帯では水資源が限られているため、持続可能な農業の重要性が高まっています。節水技術や灌漑の改善など、農業の脱炭素化に取り組むことで、地域の持続可能性を向上させることができます。
4. 砂漠地帯の生態系保護：砂漠地帯には独自の生態系が存在しており、多様な生物が生息しています。これらの生態系を保護し、環境保全に配慮することが重要です。

沙漠地帯は持続可能なエネルギーの供給や環境保護において大きな役割を果たす地域であり、脱炭素化の取り組みと関連してさまざまな取り組みが行われています。

同様な課題を大学の学生に求めたならば、根拠となるデータや出典が示されていないものの、非の打ちどころのないレポートと判断して良からう。むしろ、これら一つひとつの答えを本書と合わせて解説することが有効であると考えられる。（ちなみに本書の書評を求めたが、「2021年以降の出版物についての情報は持っていません」と返答された…）

本書はまさしく今、世界中で注目されている「脱炭素」について、気候危機の現状から地域活性化まで項目ごとに図説された本である。読者が読み進めて理解を深めるのではなく、読者自身が知りたい最新の情報を的確に検索できる、体系的に整理して活用いただくことができる本となっている。

（千葉工業大学 矢沢勇樹）

学会記事

日本沙漠学会第157回理事会 議事録

日 時：2023年4月15日（土）13：30～15：30

会 場：晴海区民館3号室洋室およびオンラインのハイブリッド開催

出 席：森尾貴広（会長）、鈴木伸治、田中徹（以上、副会長）、渡邊文雄、豊田裕道（以上、監事）、矢沢勇樹、高橋新平、川端良子、小島紀徳、石川祐一、渡邊三津子、的場泰信、田島淳、島田沢彦（以上、理事）、安部征雄、森卓（以上、顧問）、酒井裕司（副編集委員長）、真田篤史（以上、総務委員）、齋藤哲治（事務局）、入江光輝（第34回学術大会実行委員長および次期理事予定者）、児玉香菜子（以上、次期理事予定者）

委任状：小長谷有紀（理事）

対 面：森尾、島田、酒井、小島、的場、高橋、渡邊（文）、鈴木、田島、真田、齋藤、川端、田中、矢沢
オンライン：入江、渡邊（三）、豊田、石川、安部、児玉、森

審議事項：

1. 2023-2025 役員選挙開票結果

- ・ 島田総務担当理事から2023-2025役員選挙の経過と開票結果について説明された。
- ・ 第1回選挙管理委員会（2022年10月8日）で選挙管理委員会委員長として島田会員を選出、第2回選挙管理委員会（2022年12月5日）で評議員選挙候補者の決定、第3回選挙管理委員会（2023年1月16日）で評議員選挙の開票、第4回選挙管理委員会（2023年2月20日）で会長として森尾評議員を選出、理事被選挙人の確認、第5回選挙管理委員会（2023年3月22日）で理事選挙の開票を行った。その後、会長選任役員を加え、2023-2025役員が選出された。
- ・ 森尾会長から、新役員人事として、監事に高橋新平会員と渡邊三津子会員が推薦された。また顧問に豊田裕道会員と小島紀徳会員が推薦された。
- ・ 審議の結果、以下の役員案が承認された。役員案は総会にて審議を行う。

会 長	森尾貴広		
副 会 長	島田沢彦	田中 徹○	
監 事	高橋新平	渡邊三津子	
理 事（総務担当）	真田篤史○	鈴木伸治	
（財務担当）	矢沢勇樹	渡邊文雄	
（編集担当）	川端良子	酒井裕司	
（企画担当）	石川祐一	入江光輝	

	（学会賞担当）	児玉香菜子	的場泰信○
評 議 員	安部 豊	石川祐一	入江光輝
	川田清和	川端良子	北村義信
	小島紀徳	児玉香菜子	小長谷有紀
	酒井裕司	真田篤史○	篠田雅人
	篠原 卓	島田沢彦	菅沼秀樹
	鈴木伸治	高橋新平○	田島 淳
	田中 徹○	豊田裕道	縄田浩志
	平田昌弘	藤巻晴行	星野弘方
	的場泰信○	三木直子○	森尾貴広
	矢沢勇樹	渡邊文雄	渡邊三津子
顧 問	安部征雄	小島紀徳	豊田裕道
	森 卓		

理事と評議員のうち、○は会長選任。それ以外は選挙当選者。顧問は理事会で選任。

2. 2023 年度総会への提出議案について

- ・ 資料に基づき、以下の議題案について審議し、承認された。
 - ① 2022 年度事業報告（島田総務担当理事より説明）
 - ② 2022 年度決算報告（高橋財務担当理事より説明）
 - ③ 2022 年度会計監査報告（渡邊監事より説明）
 - ④ 2023-2025 年度日本沙漠学会役員選出結果の報告および新規役員の提案
 - ⑤ 2023 年度事業計画（島田総務担当理事より説明）
 - ⑥ 2023 年度予算案（矢沢財務担当理事より説明）
 - ⑦ 学会賞審査報告（渡邊学会賞担当理事より報告）
 - ⑧ 名誉会員の推挙（森尾会長より報告）
- ・ 矢沢財務担当理事から、2022 年度の会費納入率について、正会員のうち2年以上会費納入のない会員がおり、それら会員分を除くと会費納入率は9割を超えることが説明された。それら会員との連絡や会員継続の意思確認は継続して行っている。
- ・ 渡邊監事から、収支バランスがマイナスとなっているため、理事会で執行状況を確認しながら調整するよう指摘があった。
- ・ 森尾会長から、各分科会について活動内容のアップデートがあれば事務局まで連絡するよう依頼があった。また、風送ダスト分科会との連携を図るよう依頼があった。

3. 学会賞の審査結果

- ・ 渡邊学会賞担当理事から、丸山優樹会員とアロウイシー アデル会員の2名の奨励賞の推薦があったことが報告された。書類をもとに、2023年3月23日

に学会賞審査委員会でオンライン審査を行った結果授与が決定し、理事会においても審議の結果承認された。

- ・両者ともに、日本沙漠学会としては特別号（DT プロシーディングス）のみへの掲載にとどまるため、沙漠研究への投稿を促すこととした。
 - ・森尾会長から、奨励賞は若い研究者をエンカレッジする目的もあるため、今後も積極的に候補を推薦することが促された。
 - ・奨励賞の要件として、特集号の論文の取り扱いなどについて議論が行われた。
 - ・推薦要件の明文化や学会賞選考委員会の内規などの見直しを検討する。
 - ・学会賞受賞候補者を推薦するための委員会の設置が提案された。
4. 第34回学術大会と2023年度総会の開催について
- ・入江大会委員長から準備状況について報告された。
 - ・入江大会委員長から、講演会要旨集の印刷を検討していることが説明された。講演会会場は、初日のホテル、2日目の大学もWi-Fiはつながる状況でありオンライン資料の閲覧も可能であるが、講演会に向けて宮崎県から受けている補助金への証憑資料ともなるため、要旨集を印刷することで承認された。
 - ・MICEからの補助金から、飲食代を除く大会開催費用の半額程度の支出を予定している。
 - ・要旨集は、オンラインでも閲覧できるように準備する。

5. その他

- ・森尾会長から、豊田裕道会員と小島紀徳会員を名誉会員として推薦することが提案され、総会に諮ることが承認された。

II. 報告・依頼事項

1. Desert Technology XV（ヨルダン、6/3-5）

- ・森尾会長から、DT XVでは35件の発表と2件のキーノートが予定されているため、特集号では37件の報告が予定されることが説明された。

2. 投稿論文審査状況報告

- ・川端編集担当理事から、投稿論文の審査状況について報告があった。
- ・沙漠研究32巻4号は、乾燥地農学分科会小特集の内容を掲載して刊行済みである。
- ・沙漠研究33巻1号（6月刊行予定）は、秋季シンポジウムの内容を掲載予定である。

3. 各委員会メンバーの選定／各委員長理事

- ・各委員会のメンバーについては、総会議案資料内で説明済みである。
- ・森尾会長から、各委員会委員長は委員会内で検討して決定するよう依頼があった。

4. おあしす

- ・原稿内容について確認するよう依頼があった。

III. その他

- ・島田総務担当理事から、総会は5月27日（土）に対面とオンラインのハイブリッド形式で開催されることが説明された。学会賞の授与式は、同日の公開シンポジウム後に実施する。
- ・森尾会長から、森顧問による吉川前会長の新書の書評がおあしすに掲載されることが報告された。
- ・伊藤科学振興会研究助成の公募案内が紹介された。
- ・今後の大会・シンポジウム
DT XV：6月3日～5日 ヨルダンの死海で開催
- ・2023年度秋季シンポジウム：沙漠工学分科会が担当し、東京農業大学で開催予定。
- ・2024年度学術大会：文教大学で開催。

日本沙漠学会令和5年（第36回）評議員会 議事録

日時：2023年4月15日（土）15：30～17：30

会場：晴海区民館3号室洋室およびオンラインのハイブリッド開催

出席：森尾貴広（会長）、鈴木伸治、田中徹（以上、副会長）、豊田裕道、渡邊文雄（以上、監事）、矢沢勇樹、高橋新平、川端良子、小島紀徳、石川祐一、渡邊三津子、的場泰信、田島淳、島田沢彦（以上、理事）、安部征雄、森卓（以上、顧問）、酒井裕司（副編集委員長）、真田篤史、篠原卓（以上、総務委員）、齋藤哲治（事務局）、三木直子、入江光輝、北村義信、児玉香菜子、菅沼秀樹、平田昌弘、藤巻晴行、依田清胤（以上、評議員）、川田清和、星野仏方（以上、次期評議員予定者）

委任状：小長谷有紀（理事）、安部豊（評議員）

対面：森尾、島田、酒井、小島、的場、高橋、渡邊文、鈴木、田島、真田、齋藤、川端、田中、矢沢、川田

オンライン：入江、豊田、石川、安部征、児玉、森、渡邊、篠原、菅沼、星野、三木、北村、依田、藤巻、平田

議 題：

I. 審議事項

1. 2023 年度総会への提出議案について

- ・資料に基づき、以下の議題案について審議し、承認された。
 - ① 2022 年度事業報告（島田総務担当理事より説明）
 - ② 2022 年度決算報告（高橋財務担当理事より説明）
 - ③ 2022 年度会計監査報告（渡邊監事より説明）
 - ④ 2023 年度事業計画（案）（島田総務担当理事より説明）
 - ⑤ 2023 年度予算（案）（矢沢財務担当理事より説明）
- ・審議の中で、各議題案に対して理事会内で出された意見が報告された（第 157 回理事会議事録参照のこと）。

II. 報告事項

1. 2023-2025 年度日本沙漠学会役員案について

- ・資料に基づき、役員案が示された。新理事会の監事について、高橋新平会員と渡邊三津子会員（両名とも現理事）が推薦された旨、報告された。

2. 学会賞の表彰について

- ・渡邊学会賞担当理事より審査報告がなされ、丸山優樹会員とアロウイシー アデル会員の 2 名に奨励賞が授与されることが報告された。

3. 名誉会員の推挙（森尾会長より報告）

- ・森尾会長から、豊田裕道会員と小島紀徳会員を名誉会員として推薦することが報告された。

III. その他

- ・島田総務担当理事から、総会は 5 月 27 日（土）に対面とオンラインのハイブリッド形式で開催されることが説明された。学会賞の授与式は、同日の公開シンポジウム後に実施する。

日本沙漠学会第 158 回理事会 議事録

日 時：2023 年 5 月 27 日（土）12：00～12：30

会 場：ホテルメリージュ会議室

出 席：森尾貴広（会長）、鈴木伸治、田中徹（以上、副会長）、渡邊文雄、豊田裕道（以上、監事）、矢沢勇樹、川端良子、石川祐一、渡邊三津子、的場泰信、田島淳、島田沢彦（以上、理事）、森卓（以上、顧問）、真田篤史、篠原卓（以上、総務委員）

オブザーバー：入江光輝（第 34 回学術大会実行委員長）、川田清和、牛木久雄

I. 審議事項

1. 2023 年度総会への提出議案について

- ・島田総務担当理事から、2023 年度総会への提出議案が説明された。また、総会の進行方法について打ち合わせを行った。会場から議長推薦者が挙がらなかった場合、川田会員を議長候補として推薦することを確認した。

II. その他

- ・矢沢財務担当理事から、今後の講演会時における要旨の配布方法について質問があった。経費削減の面から、あるいは学会の活動を広く発信するという面からも HP 上で公開する方法は望ましいが、講演会に対面で参加することへの特典もあった。島田総務担当理事から、現在、基本的には要旨は HP 上で配信することになっているが、製本の有無は開催校にゆだねられていることが説明された。
- ・投稿論文を増やすための方策として、ベストポスター賞の受賞者に 1、2 年以内に論文の投稿を促し、その際に特典として投稿費の減免をすればどうかという案が示された。川端編集担当理事から、投稿料を 1/3 に減免することは内規でも定められており、その方向で考えているが、無償化については財務との検討事項であることが説明された。

学会事務局

日本沙漠学会事務局は、下記の機関において役割分担しています。用件の内容に応じて担当にご連絡下さい。

【日本沙漠学会事務局】

〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-4 共立ビル 2F 株式会社共立内
Tel : 03-3551-9896 Fax : 03-3553-2047 Email : jaals@kyouritsu-online.co.jp

【日本沙漠学会編集事務局】

〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-4 共立ビル 2F 株式会社共立 三角誠司気付
Tel : 03-3551-9896 Fax : 03-3553-2047 E-mail : jals.editorial@gmail.com

【日本沙漠学会ホームページアドレス】

http://www.jaals.net/

* * * * * 会 員 動 向 * * * * *

●新入会員

学生会員

- 緒方 天斗 (ID : 1178) 宮崎大学
- Sarwary Manizha (ID : 1179) 宮崎大学
- 依田 幸子 (ID : 1180) 東京農工大学大学院
- 花好 勇太 (ID : 1181) 東京農工大学農学府
- Zukhrudin Ismoilov (ID : 1182) 東京農工大学大学院
- Igor Taranov (ID : 1183) Tokyo University of Agriculture and Technology
- Bokuchava Mariam (ID : 1184) 東京農工大学大学院
- MEJLUMYAN DAVIT (ID : 1185) 東京農工大学大学院
- Le Thi Cam Nhung (ID : 1186) 東京農工大学大学院
- 西村 彩花 (ID : 1187) 東京農業大学
- Alemshet Bekele Tadesse (ID : 1188) 宮崎大学

●退会会員

正会員

- 手代木功基 (ID : 1022) 撰南大学
- 高村 弘毅 (ID : 261) 立正大学
- 矢吹 貞代 (ID : 426)
- 篠田 裕 (ID : 208) 千葉工業大学
- 菅 雄三 (ID : 223) 広島工業大学
- 間下なぎさ (ID : 743)
- Hamed Ebrahimian (ID : 1166) 鳥取大学
- 荒井 直人 (ID : 1135) NTC インターナショナル株式会社

学生会員

- ERUKUDI COLUMBUS ACHAM (ID : 1165) 鳥取大学
- 毛利奈知子 (ID : 1155) 一橋大学

***** 賛助会員・団体会員名簿 *****

アースアンドヒューマンコーポレーション	194-0041	町田市玉川学園 8-3-23	Tel : 042-710-7661
株式会社ウイジン	158-0097	世田谷区用賀 2-12-14	Tel : 03-3700-0531
NTC インターナショナル株式会社	164-8721	東京都中野区本町 1-32-2	Tel : 03-5354-3621
株式会社大林組技術研究所	204-8558	清瀬市下清戸 4-640	Tel : 0424-95-1060
